

<p>長野県林業大学校 教育方針</p> <p>長野県林業大学校は、長野県林業の近代化を推進するため、専門的な知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす技術者並びに林業後継者となる有能な人材を養成することを目的として、行学一致の総合的な教育を行う。</p> <p>1 一般教養を高めるとともに、専門的な知識・技術を体系的に習得させ、さらに寮生活を通じて人間形成を図らせるなど指導者となるための全人教育を行う。 2 大学、試験研究機関との連携のもとに林業に関する技術並びに知識を習得させ、長野県林業の進むべき方向に沿った教育を行う。 3 実験・実習を重んじ、実践的な教育を主眼として、新時代の社会の要請に対応し得る生きた教育を行う。</p>

重点目標（中・長期目標）	総合評価		評価
日本一の林業大学校を目指す。	日本一の林業大学校を目指すためには、他校に比べ抜群に優れた講師・講義レベル・施設・機械装備であることが必要となる。しかしながら、それは多大なる予算措置を伴うものとなり厳しいのが現状である。本校では、講義内容の徹底した検討と、他大学・企業などとの連携協定などにより、資産や施設・機械装備をシェアすることにより、より高いレベルの教育内容を実現するとともに、懸案事項であった男子寮の建替と福島県有林の演習林化に着手し関係予算を確保した。		A
今年度の重点目標	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進	○国内最高レベルを意識した講義手法・カリキュラム・学習活動の見直しの検討を随時教務会議で行い、実行に移している。（JLC＊1鳥取大会への参加等、国内・世界最高レベルの技術取得を目指す校風の醸成、ハスクバーナとの教育連携によるトップガン研修内容の充実に加え新たに高性能林業機械トップガン講習の創設など） ※JLC：日本伐木チャンピオンシップ ●より高度で効率的な学習を行うための演習林の整備	・学校敷地に隣接した県有林を学校演習林として活用できるようにするための手続き及び関係予算の要望を行い高いレベルで確保した。	A
器具・機械の更新、学習機材・機器・施設の整備	○最大の課題であったチェーンソーについては、今年度予算化し、最新式プロ仕様トリオプレーキ21台（計41台）、大径木伐採用チェーンソー1台及び刈払機10台（計20台）を更新した。 ●時代遅れの集材機を更新する必要がある。 ●傾斜地での伐倒の安全性の確保を練習できる機器の整備が必要である。 ●GPSなどの機能を使える最新の測量機器の数量が不足している	・必要機器について令和2年度予算要求を強力に行い、課題であった集材機・傾斜地での伐倒練習機の予算を確保できた。最新の測量機器については今年度予算で充実できた。	A
大学等教育機関、行政組織、地域団体・企業等との連携強化	○平成29年9月4日に締結した「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」に基づき、国内有数の技術者から操作実習を受ける「高性能林業機械トップガン講習」を創設した。 ○平成29年5月25日：ハスクバーナ・ゼノア(株)との教育協定を締結し、国内最高レベルのチェーンソー技術者から講義を受ける「チェーンソートップガン講習」が学生の技術向上に寄与している。 ●京都・岐阜・長野3林大伐木選手権大会が令和元年11月14・15日に本校で開催される。その実施に向けて必要な機材・資金の確保が必要である。	・木曾郡内で林大を応援する組織：「我ら林大応援団」が組織され、必要な機材・資金が確保されました。その結果、3林大伐木選手権では圧倒的な強さで総合優勝し（総合得点：長野22 岐阜14 京都14）昨年度に続いての連覇となり、技術力の高さを全国にアピールした。	A
2年生の進路の早期確定と2020年度入学志願者の確保	○面談を重ね本人の意向を把握した上で、早期に具体的な就職先を選定する指導ができています。○公務員志望者のため補講時間を増やすなど平成30年度より対応策を実施している。 ●企業側などの学生確保への動きの早期化・活発化への対応	・この状況を維持する努力を継続する。	A

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
学習指導	授業実習内容の充実を図る。	【拡】「最高の学習環境」を目標に置きながら、学生の満足度も把握し、質の高い講義内容に進化する努力をしているか。	○高性能林業機械トップガン講習・ドローン技術を取り入れた森林情報など昨年度の講義内容に検討を加えより高い内容に進化させた ●時代遅れの林業機械・測量機器の更新、エアコンの設置されていない教室など学習環境の向上を図る必要がある。	・必要機器について令和2年度予算要求を強力に行い、高性能のフォワーダが予算化された。新たな男子寮はエアコン導入の方向、教室・女子寮は順次予算要求する。	B	
		【継】 学生が、自ら考える力を習得するよう指導できたか。	○学生の自主性により、これまでにない多様な視点と方向での学習活動が展開されている。 ●学生の希望が多様化しており、林大内部の教務担当者だけでは指導しきれない面があるとともに、研究・調査時間の確保が大きな課題である。	・自主研究の時間確保をした。 ・自主研究の実施にあたって広域連合・市町村・外部有識者等の協力を得て充実した研究が行われた。	A	
		【継】 現場に促した知識の取得、技術力の向上を目標とした実習内容を行なったか。	○関係機関との連携協定・覚書を締結することで最高レベルの技術者や環境・機材を使用しての実習を可能にし、学生の技術力向上が促進されている。 ●地元林業士の人数が減少し、今後指導体制が弱体化する可能性がある。	・安全面と技術面で優れた指導能力を有するJLCチャンピオンを講師とする年2回のトップガン講習の仕組みが構築された。なお、視察に来た林大の中で4校が取り得る全国モデルとなった。	A	
	既存カリキュラムの充実・見直しを図る。	【継】 「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進現場で使える知識、技術、時代変化に対応し、林大らしさを踏まえたカリキュラムの見直しが行われたか。	○森林・林業を取り巻く情勢に鑑みながら、必要な改正を令和元年度授業カリキュラムで実施、引き続き令和2年度に向けて検討を行う。	・取組を継続する。	B	
		効率的・計画的な実習等で学習効果を高める。	【拡】 他大学、地域、企業等関係機関と連携し、実習の向上が図られたか。	○平成29年9月4日に締結した「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」に基づき、今年度は新たに高度な高性能林業機械操作を学習する「高性能林業機械トップガン講習」を創設し学習効果の高い実習が実現できている。 ○平成29年5月25日に締結した「ハスクバーナ・ゼノア(株)との教育協定」に基づく、国内最高レベルのチェーンソー技術者から＊WLCルールを活用する講義を受ける「トップガン講習」が年2回4日間の日程で実施された。昨年度よりさらに内容が充実され学生の安全動作の確保とチェーンソー技術の向上に寄与している。 ●「ハスクバーナ・ゼノア(株)との教育協定」は来年度更新を迎えるので次期協定に向けて検討が必要である。	・取組を継続する。 ・「ハスクバーナ・ゼノア(株)との教育協定」の次期更新に向け方向性が同意された。	A

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
教育活動	進路指導	個々の学生に適した進路選択、希望の職種への円滑な就職を推進する。	【継】 1年生は12月末を目標に将来の進路を確定できるように指導できたか。 【継】 2年生は2月末を目標に就職先を決定できるように指導できたか。 【継】 円滑な就職に向け、インターンシップや個人面談を計画的に実施できたか。	○1年生は計4回の個人面談や就職ガイダンス、インターンシップ等により希望を把握し、進路の方向付けが早く確定した。 ○2年生は随時個人面談を行い就職先を確定し、積極的に相手先に働きかけることにより、公務員志望者を除き進路確定は9月中旬に概ね確定した。 ○インターンシップの実施により就職先とのマッチングを深めることができています。	・オンタイムで情報提供を行い、企業との調整も積極的に行った。	A
		就職・進学の情報提供	【継】 学内掲示板、個人面談を利用して、的確な求人情報が提供できたか。	○学生希望を叶えるための個別ミーティングを積極的に行った。また、公務員対策模試など充実させ、国家大卒程度に2名合格した。 ○複数回インターンシップを行うことにより、会社等とのマッチングが図られ有意義な就職に結びついた。 ○企業説明会に参加することにより、幅広い角度から就職について考えることができた。	・取組を継続する。	A
	生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成	【継】 規則正しい生活や地域活動を通じて、社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 【新】 教務会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。	○ラジオ体操及び朝礼への全員参加による始業30分前行動 ○教官及び舎監による適切な生活指導 通期 ○地域活動への積極的な参加 ・御嶽山登山道整備活動(1年) 7月2日 ・みこしまくり(2年) 7月23日 ・木曾手仕事市 8月25日 ・雪灯り 2月6、7日 ・木曾おんたけ観光局依頼のアルバイト 通期 ○教務会議の開催 15回(月2～3回開催)	○取組の継続 ○地域活動への積極的な参加 ・木曾おんたけ観光局依頼への対応 ○教務会議の開催	B
教育設備の充実と適正な管理	林業機械や施設機器の充実と適正な管理	【継】 実習等に必要の機械・設備は充分確保されているか。 【継】 関係機関との連携により、高性能林業機械等保有していないが必要な機械の効率的な利用ができたか。	○最大の課題であったチェーンソーについては、昨年度予算化し、最新式プロ仕様トリオプレーキ21台(計41台)、大径木伐採用チェーンソー1台及び刈払機10台(計20台)が更新でき課題が解決できた。 ●時代遅れの集材機器を更新する必要がある。 ●傾斜地での伐倒の安全性の確保を練習できる機器の整備が必要である。 ●GPSなどの機能を使える最新の測量機器の数量が不足している	・必要機器について令和2年度予算要求を強力に行い、能力の高いフォワード及び傾斜地での伐倒練習機を予算化できた。	A	
		【新】 林業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営は行われているか。 【新】 使用できない機械の廃棄が行われたか。	○機械の補修についてはタイムリーに行い、情報共有もされている。 ○使用後の保守点検は学生により円滑に行われ、新しいチェーンソーの保守点検簿が作成されている。 ○使用できない機械の廃棄は行われた。	・取組を継続する。	B	
	学校用地や施設の適切な維持管理	【新】 学生の安全で健全な生活が確保できる施設の維持管理がなされているか。 【新】 寮の運営に際して、舎監・寮母・学生との情報共有が図られているか。 【継】 実習棟・機械庫等は、定期清掃日の設定などにより整理整頓がなされているか。	●学生寮の老朽化が進み、施設の更新が必要となっている。 ○定期的な打合せの場を設けた。 ○学校スタッフと学生により適正に管理された。	・男子寮の建て替えが決定し、今年度補正予算で設計費が認められ来年度着工も決定した。	A	
学校運営	林大の魅力発信と学生確保の活動	充実した学生募集のPRを実施する。	【継】 学生募集のパンフレット及びポスターを作成・配布し、林業大学校への関心を高めることができたか。 【継】 オープンキャンパスの開催及び高等学校への訪問など積極的なPR活動を実施することができたか。	○新たに学生募集に向けた学校案内のパンフレット及び学生募集ポスターを作成し、県内のすべての高等学校、県外の入学実績のある高等学校等に配付した。 ○オープンキャンパスを2回開催し、林大の授業の一部を体験するコーナーを設置するなど内容を工夫して、林大受験を考えている学生や林大に興味のある学生に林大の紹介を行った。(参加者：学生52名を含む総数96名) ○県内のほとんどの高等学校を訪問し、進路指導担当に対し、志願者確保に向けたPRを行った。 ○業界誌に林大の活動状況の紹介記事を投稿し、林大のPRに務めた。 ○林大の活動内容に関する報道機関の取材に協力した。 ●引き続き、高校生をはじめとする若者が林業へ関心を持ってもらえるような取組を行っていく必要がある。	・引き続き、高校生等へ林大をアピールする取り組みを行っていく。特に専門高校への説明を重点的に行い、学校推薦の学生を増やしていく。	C
		ホームページの充実を図る。	【継】 魅力的なホームページとなっているか。 【継】 学校の概要及び取組が適切にPRされているか。 【継】 必要な情報提供が行われているか。	○見やすいホームページとするため、学校情報を4つのメニューに分類して掲載している。 ○学校行事により多くの方が参加していただけるよう、お知らせを随時掲載するとともに、主な行事については実施した内容を掲載している。 ○フェイスブックやインスタグラムを利用して学生主導の情報発信を行っている。 ●魅力ある林大をアピールするためホームページを更に充実させる必要があるが、県のホームページの空間量が制限されている。	・引き続き、見やすいホームページつくる取り組みを行っていく。	B
	その他	コンプライアンスの実践が図られているか。	【継】 法令を順守しているか。 【継】 予算が適正に執行されているか。	○授業から学校運営に至るまで法令を順守し実施している。 ●男子寮が耐震基準を満たしていない。 ○限りある予算を執行計画に沿って必要性・緊急性を考慮しながら執行している。 ○予算の執行に当たっては、適正な手続きを経て執行している。	・学校施設が耐震基準を満たすよう県当局に要望していく。 ・よりよい林大をめざし、県当局に対し必要な予算要求を行うよう働きかけていく。	B